

道がつなぐ歴史と風景



戦前の久住高原

竹田IC開通記念 久住高原美術館

「やまなみハイウェイ企画展」



工藤元平

1889年生まれ。久住郵便局長として22年間郵便事業に貢献。昭和27年久住町長に就任。この経歴のほかに、町・県などに関する十指に余る各種の委員、役員など、幅広く多岐にわたって活躍。元平は山を愛し、そして

山を愛した久住の父

山に登った。登山歴は000回を超えた。その間、黒岳の踏査登山に成功。大正4年、牧野富太郎博士を迎えて久住山植物採集(大正11年)、久住山の冬山登山に成功(大正15年)、久住山生林帯を踏破して新登山道を開拓(昭和9年)、久住山志植物編の編集などの数々の業績を残した。また、明治40年頃から新聞記事切り抜きのほか、絵

現在



写真奥が久住山



県道30号庄内久住線(終点)



現久住支所入口から南へ

過去



久住本町・下町通り(昭和3~10年頃)



久住本町交差点付近(昭和32年12月)



久住本町・下町通り(大正15年)

文豪らを観光案内 開催にあたって

油屋熊八は、別府で有名な銅像が建てられている。熊八は、明治44年に亀の井旅館を別府で開業し、ア

文豪らを観光案内



写真右から、工藤元平、油屋熊八、荻原井泉水、宇都宮喜六(昭和8年10月 久住郵便局前、現久住支所入口)

ら無い降りて来たような姿の銅像が建てられている。熊八は、明治44年に亀の井旅館を別府で開業し、ア

文豪らを観光案内

熊八や元平らは、国立公園指定に向けた取り組みや、くじゅう観光重伝にも大いに貢献した。俳人の荻原井泉水のほかに、小説家の田山花袋、歌人の北原白秋など、有名な文豪たちが久住、竹田を訪ねているが、熊八、元平が同行し、観光案内をしている。

昭和三年に、九州横断道路建設を提唱。工藤元平、油屋熊八らは、964年に実現。有料道路として開通した。別府と長崎を結ぶ九州横断道路(くじゅう観光重伝)を結ぶ。観光の主要な観光地を結ぶ。道路となる。平成6年に無料区間となり現在に至っている。



油屋熊八



昭和2年、25人乗りバス4台を購入。日本で初めて定期乗り合い遊覧バス事業を始めた。

米相場で大儲けしたり無一文になったりした末に、米国へ。洗礼を受けて帰国後「旅人をねんごろにせよ」との聖句実現を志し、明治44年に亀の井旅館を別府で開業。大正14年には富士山に「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」との標柱を仲間と建てた。その後、温泉地獄めぐりに国内初の女性バスガイドによる解説付きの遊覧バスを走らせるなど、アイデアを駆使して別府温泉の礎を築き、宣伝に尽力した。



与謝野夫妻と久住のひと(昭和6年)



与謝野夫妻、油屋熊八が写った久住での写真(昭和7年当時の県種畜場)



久住での野口雨情(右)(昭和9年)



後藤是山(左)・与謝野夫妻(中央)・工藤元平(右)(昭和6年)



徳富蘇峰夫妻(中央)・工藤元平(右)(昭和4~9年頃)



久住沢水での徳富夫妻(昭和9年)



竹田市長 首藤勝次

まぶさびつくりが行え、道つくりを望む。土要に満ちた方々がいたからです。

今回、中九州横断道路が竹田市へ延び、開通することで、チャンスが広がることになり、まず、この企画展を通じて先人たちが、「みち」を通じて「まち」の未来につなげようとした足跡を振り返り、その感動を皆さまと共有できたらと思っております。

